虚子記念文学館投句特選句・令和六年二月

稲畑廣太郎　選

学帽を春一番に放り投げ　兵庫　惠島祥一朗

待針にかすれし名前針供養　東京　菅谷　糸

待春やランドセル置く枕元　大阪　勝山禮子

入籍の恥ぢらふ友よ梅香る　兵庫　足立朱麻

集落を孤立させまじ雪を掻く　石川　白根寿子

盆梅の枝丹念に大胆に　大阪　西尾浩子

薄氷に水の鼓動の伝はり来　東京　荒川ともゑ

春浅し古き手帳に遠き友　兵庫　高市敦之

春浅し鯉が空気を食べる音　静岡　いたまき芯

懐紙より取り出す針や針供養　兵庫　武田奈々

（青少年）

入選句・令和六年二月

日脚伸ぶ芦屋に育つ詩心　兵庫　黒田千賀子
天平の甍しっとり春立つ日　大阪　大橋明子
漂ふも躓くものも流しびな　大阪　立入宮子
薄氷の犬の椀にも張つてをり　兵庫　小川孝子
豆雛に偲ぶ面輪やゑまふ声　兵庫　髙野さち
切株に宿下駄を干し春障子　奈良　山口廣世
ひとときも休めぬ育児春の風邪　兵庫　宮本露子
節分の弦月雲を寄せつけず　奈良　堀田建夫
見覚えの友の賀状の癖字かな　大阪　北上美佐子
ようこそと次郎左ヱ門雛の間　兵庫　小柴智子
頬ゆるぶ十二神将寒明くる　兵庫　上岡あきら
寄席太鼓轟き渡る梅の宮　奈良　堀田ますみ
恋猫のひげの辺りに棲む魔性　三重　池本準一
闇汁の湯気へ怪しさ匂ひ立つ　奈良　河村久美子
慎みて収む外科医の針供養　大阪　藤本公子
ホームより早春の海手庇に　兵庫　齊木富子
春の風邪妙にしをらし妻のゐて　大阪　若林友子
連覇へとカウントダウン春立ちぬ　兵庫　森岡喜惠子
節分の鬼に抱かれたママが居る　大阪　梶田高清
師に語るごと次郎左ヱ門雛に　兵庫　西村正子
隙をつき飛びつく春の風邪であり　兵庫　山之口倫子
冬あふひ祖母に晩年なかりけり　大阪　押見げばげば
四温晴美穂女居さうな道修町　大阪　山田佳音
弾け咲く勢の影や寒桜　香川　藤田敦雄

能登余震凍つく空に寒の月　石川　辰巳昌彦
俳磚に光集めて春浅し　大阪　徳岡美祢子
幸せを撒く福は内鬼は外　大阪　多田羅紀子
さつと来て鳥のさらひし実千両　三重　中島庸子
豆撒いて怠惰な鬼も追い出しぬ　三重　吉川博子
白梅の己がペースで開きけり　大阪　奥野千草
神の庭仏の庭の梅探る　大阪　室田妙子
下萌やむかしむかしのげんの庭　香川　三好ようこ
年豆も歳もろとも放り込む　大阪　徳永由起子
松籟に面影香る寒の梅　岡山　奥山登志行
寒明けの空あをあをと匂ひけり　兵庫　槌橋眞美
春めくや陽のさす部屋のロゼワイン　愛知　海神瑠珂
逆打ちのはじめの札所笹子きく　兵庫　細田清子
蒼天の邸にほころぶ濃紅梅　大阪　谷本房子
虚子生誕百五十年春立ちぬ　兵庫　奥田好子
師の庭に根付く盆梅数多あり　兵庫　涌羅由美
立春やまだまだ学び続く道　兵庫　玉手のり子
針納糸の七色褪せぬまま　兵庫　中村恵美
松に日の乗りて春立つ杣の村　京都　杉森大介
盆梅の日当たる向きを変へにけり　京都　木村直子
空へ踏む風の階落椿　岡山　石井宏幸
診察のたびに盆梅談義かな　香川　葛原由起
日脚伸ぶ千両箱は空つぽに　兵庫　吉村玲子
早春やしりとりの語彙増えし子よ　京都　山﨑貴子

島の春一周九十分の旅　兵庫　深尾真理子
節分や宮の竹林高鳴れり　兵庫　岸川佐江
立春の雨やはらかく館包む　香川　三宅久美子
金樓梅や五線を跳ぬる黄の音譜面　兵庫　辻　桂湖
大橋を二つ越え来る若布売　兵庫　永沢達明
艶やかな風立春の芦屋川　鳥取　前田　千
枝先へ駈けのぼりゆく梅二輪　鳥取　椋　誠一朗
梅二月固く結びし絵馬の紐　大阪　林　曜子
偲ぶ色とは紅梅も白梅も　兵庫　池田雅かず
二ン月の稜線やはし六甲山　兵庫　高橋純子
盆梅や襖にのぶる影の綾　兵庫　武田優子
迷ひなく白梅の枝を剪つてゐる　三重　水越晴子
垣根より犬の顔出す枝垂れ梅　奈良　堀ノ内和夫
万象の目覚め促す初音かな　京都　西村やすし
再生の勢末黒の芒原　大阪　河辺さち子
梅の花盛りが館を膨らます　兵庫　池田文子
「そして、トンキーもしんだ」と花見鳥　大阪　椋本望生
春雪や虚子の銘板手で払い　埼玉　小田毬藻
古宿の灯油の匂ひの眠さ哉　大阪　友岡飛鳥
六甲の雪解の水の海となる　兵庫　福田光博
ブギウギのリズムに乗りて春の川　石川　伊東弥太郎
俳磚に日の斑こぼれて名草の芽　大阪　徳澤南風子
早春賦光満ちくる海に舟　兵庫　川村ひろみ
同じ頃訪ふ同じ庭牡丹の芽　大阪　徳澤彰子
豆まきの声鬼の背を追うてゆく　石川　辰巳葉流

春日差し墓標の影と吾の影と　鳥取　椋　則子
水仙や里の斜面を埋め尽くす　愛知　加藤清美
月一度訪へて虚子館あたたかし　兵庫　平田　惠
佐保姫ももうひと眠り雨の朝　奈良　豚々舎休庵
ひらかなのやうな日差しや梅香る　兵庫　岩水ひとみ
保護犬の涙の匂ひ雪解音　兵庫　月あんぬ
如月の光包むや伊良湖崎　愛知　小野　薫
白梅の古木一樹に立ち揺らぐ　兵庫　岩鼻絹子
冴返る日も虚子館を訪ひ学ぶ　新潟　安原　葉
雨の日の虚子館しづか雛まつる　兵庫　藤井啓子
華やかに汀子師のやう黄水仙　兵庫　入谷千惠子
春時雨降りては止みて又降りぬ　兵庫　山口弘子
能楽堂出れば浪花は春しぐれ　兵庫　大西美知子
木の実植う郷の山路を浮べつつ　兵庫　山岸正子
忘れまじここに木の実を植ゑしこと　兵庫　金田八江子
春時雨舟ゆく海の静かなり　兵庫　河合美惠子
参道を下りて里へ春しぐれ　兵庫　山﨑渺美
木の実植う俳諧の旅始まりぬ　兵庫　道中義臣
幼な子の頬の桃色霜柱　神奈川　斉藤苑子
一面の記事に大きく春一番　兵庫　太平楽太郎
春寒のテラスへ百の白き椅子　兵庫　二瓶美奈子
クロッカスひそかに咲かせ彫金師　兵庫　西村みどり
分け合ひし横川の木の実植えどきに　大阪　田邉育子
鶯の声を辿れば谿深し　兵庫　柳生清秀
夕されば桶に水音蕗の薹　滋賀　近江菫花

人の世は間々ほろ苦く蕗の薹　神奈川　小林　心

犬型の埴輪の睨む春の闇　和歌山　中島紀生

魚跳ねる水面に残る寒さかな　兵庫　阿曽宏之

コトコトと玉葱買いに子を追えり　熊本　貴田雄介

屏風絵に漁父と賢人春浅し　兵庫　キートスばんじょうし

瀬音ふと振り向く少女春隣　兵庫　伊集院秀樹

下萌を促してゐるポロネーズ　兵庫　田村惠津子

藁被り傅かれたる寒牡丹　埼玉　土井洋子

紅梅やこれからも師と歩みゆく　神奈川　進藤剛至

福は内そろり置くよに部屋の隅　神奈川　金子三奈乃